

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

キャピタル損害保険株式会社（証券コード：ー）

【据置】

保険金支払能力格付	AA
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 三菱HCキャピタルグループの損害保険会社。94年に米国ユナム・コーポレーションにより設立された旧ユナム・ジャパン傷害保険が前身である。04年に旧日立キャピタルが当社を買収し、21年4月の旧日立キャピタルと旧三菱UFJリースとの経営統合に伴い三菱HCキャピタルグループの一員となり、7月に現商号に変更した。議決権比率は三菱HCキャピタル79.4%、損害保険ジャパン20.6%で、三菱HCキャピタルの連結子会社かつ損害保険ジャパンの持分法適用関連会社である。当社の保険金支払能力格付は、保険金支払債務について三菱HCキャピタルの保証が付されていることから、三菱HCキャピタルの長期発行体格付と同水準としている。当社の信用力には、保険本業の収益性や財務の健全性などを踏まえた単体の評価に加えて、三菱HCキャピタルグループにおける位置付けや支援の可能性などを勘案し、三菱HCキャピタルの信用力を織り込むことが適当とJCRは考えている。
- (2) 事業規模は小さいものの、特徴的な商品展開と多様化する顧客ニーズに柔軟に対応することでニッチ分野にフォーカスした事業戦略をとってきた。団体向け傷害保険などのLTD（Long Term Disability）事業と取引信用保険などのBAI（Business Activity Insurance）事業が収益の柱である。正味収入保険料の約8割を占めるLTD事業では、主力商品である団体長期障害所得補償保険の新規マーケット・新規チャネル開拓にも取り組んでおり、事業規模は継続的に拡大している。BAI事業の構成比は正味収入保険料ベースで約2割と小さいものの、銀行とのアライアンス戦略や代理店との連携を通じて事業の強化を進めている。
- (3) コンバインド・レシオは80%程度と相対的に低い水準で推移しているが、保険種目の構成比が大きく異なるため一般的な損保会社との単純比較はできない。近年のLTD事業におけるトップラインの拡大に伴い、一部の契約で損害率が高止まりするなど、リスク・リターンを踏まえた対策が求められる。また、BAI事業では1契約あたりの金額が大きく、個別契約の動向が会社全体の収支に与える影響が大きい。三菱HCキャピタルグループや損害保険ジャパンとの連携強化の取り組みが、事業規模の拡大につながるかに注目していく。
- (4) 異常危険準備金などを含む中核的な自己資本は、内部留保の蓄積などにより増加しており、総資産対比で50%を超えている。ソルベンシー・マージン比率は高い水準が維持されている。資産運用面では、安全性と流動性の確保を優先しており、リスクは限定的である。もともと、当社の事業はLTDとBAIに集中しており、リスクプロファイルは一般的な損保会社と大きく異なる。事業規模の拡大や事業の多様化、適切なリスク管理の下での損害率の改善などを通じて、収益基盤の安定性を確保することが中長期的な課題となろう。また、組織規模が小さいためガバナンスの面で相互牽制などがより重要と考えられることから、当社がERM態勢の整備を通じて経営管理の高度化を進めていることの意義は大きい。JCRでは当社のリスク・リターンの考え方の整理や経営戦略におけるERMの活用に対する取り組みを見守っていく。

（担当）宮尾 知浩・阿知波 聖人

■格付対象

発行体：キャピタル損害保険株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
保険金支払能力（三菱HCキャピタル株式会社保証）	AA	安定的

